

国際協力特論

佐伯 奈津子

● 講義概要

本講義は、国際協力について政治・社会・経済・歴史などの観点から学び、国際協力をめぐるさまざまな議論を検討する。

第二次世界大戦で荒廃したヨーロッパの復興支援が、国際協力のはじまりといわれる。戦後の東西冷戦構造のなかで、国際協力は東西どちらかの陣営に取り込み、つなぎとめておくためのツールとして利用されてきた。そのため、国際協力は独裁政権をも支援する危険性が指摘されてきた。

さらに「低開発」国が先進国に「追いつく」ことをめざす開発主義は、国際協力が再植民地化、もしくは植民地主義の継続につながるものだという批判もなされてきた。そのいっぽうで、国際協力の中心が経済開発から社会開発や人間開発へとシフトしたり、人間の安全保障、持続可能な開発といった新たな価値が提唱されたりしている。

本講義では、このような国際協力をめぐる議論について、具体的な事例を取り上げながら検討し、国際協力の意義や課題についてともに考えたい。

● 学修到達目標

- ・グローバル化時代の現在、自身が世界で起きている諸問題と切り離せない存在であることを理解する。
- ・国際協力分野の重要な議論、キーワードを理解し、説明できる。
- ・アクターごとの国際協力の特徴と課題を理解し、説明できる。
- ・少数者や弱者がおかれている状況に、共感と想像力をもつ。

● 講義計画

第1回 オリエンテーション

第2回 開発途上国の直面する課題

第3回 国際協力の歴史

第4回 「開発」概念の変遷

第5回 収奪と貧困

第6回 国際協力のアクター

第7回 (事例研究) 政府開発援助(ODA)と国益

第8回 (事例研究) 政府開発援助(ODA)と社会・環境影響

第9回 (事例研究) 開発協力大綱を読む

第10回 (事例研究) グローバル経済と反搾取工場運動

第11回 (事例研究) 新自由主義経済とフェアトレード

第12回 (事例研究) 紛争地における人道・復興支援と民軍協力

第13回 (院生の発表) 修士論文に国際協力の視点を加える①

第14回 (院生の発表) 修士論文に国際協力の視点を加える②

第15回 まとめ

● 事前事後学習

事前学習では、テキストを読み、概要・疑問点をまとめる。

事後学習では、自身の研究テーマにひきつけて、論点を整理する。

● テキスト

受講生の研究テーマに応じて、講義時に提示する。

● **参考資料**

藤岡・越田・中野(2011)『脱「国際協力」:開発と平和構築を超えて』新評論

松本・佐藤(2021)『国際協力と想像力:イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社

● **成績評価方法**

受講態度(発表・ディスカッション)70%、期末レポート 30%

● **その他留意事項**

発表・ディスカッションに備えて、事前学習を十分におこなうこと。

国際文化交流特論

張小鋼

● 講義概要

本研究では、『中国文化の座標：南北の対立と融合の歴史』というテーマで講義を行う予定である。従来、中国文化といえば、衣食住や政治思想や文学などの話がよく聞かれるが、文化地理学という視点から中国文化の深層を探求する研究があまり見られない。文化地理学とは、歴史、地理、気候などの視点から、異なる物産、風習、文学、文化などの発生を明らかにする学問である。具体的に言うと、中国の長江や黄河などの大川はみな西北から東南に流れ、最終的に海に流れ込む。従って大きく南北の地域の文化を形成する。また、北方の騎馬民族を防ぐために、春秋戦国時代から各国が多くの城壁を作った。それは後に秦の始皇帝によってつなげた万里の長城となる。その人為的な境界線は、さらに北方の漢民族と少数民族との対立の原因となる。

この講義では、中国における南北文化の対立と融合の歴史成因と過程を解説する。

● 学修到達目標

この授業を通じて、中国文化の深層に対する認識を深めてもらい、この方法論に基づいて中国の事象を深く観察・分析することができるようになる目標とする。

● 講義計画

- 第 1 回 文化地理学へのアプローチ
- 第 2 回 中国の風土(気候)
- 第 3 回 中国の物産
- 第 4 回 中国の風習(人情)
- 第 5 回 中国の山川
- 第 6 回 中国の治水(運河)
- 第 7 回 中国の陸運(車馬)
- 第 8 回 中国の水運(舟楫)
- 第 9 回 中国の住居(穴居)
- 第 10 回 中国の住居(巢居)
- 第 11 回 中国の茶事
- 第 12 回 中国の酒事
- 第 13 回 中国の料理(魚介)
- 第 14 回 中国の料理(羊)
- 第 15 回 まとめ

● 事前事後学習

- ① 事前に配布した資料を予習したうえで、質問を準備すること。
- ② 分担した課題を事前に準備すること。

● テキスト

張小鋼『中国文化の座標：南北の対立と融合の歴史』(未出版)

● 参考資料

① 中国歴史年代表

② 中国歴史地図

● **成績評価方法**

① 積極的に発言し、自分の考えを述べること。(平常点 20%)

② 課題発表。約 1200～2000 字程度。(20%)

③ レポート提出:3000～5000 字程度。(60%)

国際関係特論

増田 あゆみ

● 講義概要

本研究は、国際関係を、国際関係論のパラダイム(範例)に沿って、見ていくことによって、20世紀初頭の国際関係から現在の国際関係がどのように変化してきたのかを分析していこうとするものである。

20世紀初頭の国際関係論パラダイムは、列強国を行動主体(アクター)として承認した軍事力と帝国主義を重視した西欧国際体系であった。第二次世界大戦後は、米ソを中心とする東西冷戦の思考軸がパラダイムになり、1960年代からは、南北問題と国際的相互依存が、国際関係論のパラダイムに加わった。さらに地球環境問題も加わり、国際関係は、国際間関係、トランスナショナルな関係、超国家的機能による3層部から構成されるものとなった。伝統的な国家間関係にくわえ、ヒューマン・イシューとグローバル・イシューが、国際関係のパラダイムの一部を構成するようになってきたのである。

本講義においては、従来の伝統的国際関係のパラダイムの確認も行いながら、この新しいパラダイムのヒューマン・イシュー(人権論、ジェンダー、子ども、健康、エスニシティ)とグローバル・イシュー(国際連合、グローバル・ガバナンス、地域統合、多文化主義、情報ネットワーク、地球環境問題)を中心に、現在の国際関係を見ていきたい。なお、各イシューにおいては、一般的解説、および具体的な事象による事例研究を含み、問題提起を行いながらの分析を進めていきたい。

● 学修到達目標

国際関係論および国際政治学の基礎を固めることが目標となる。

国際関係論および政治での物事の構造、国家間、社会間の関係を、基本的な理論に基づいてみるができるようになることを本講義の到達目標とする。

● 講義計画

- 第1回 国際関係のパラダイム(範例)とは
- 第2回 国家間関係、国家安全保障
- 第3回 外交、戦争
- 第4回 植民地支配
- 第5回 人権
- 第6回 ジェンダー、子ども
- 第7回 人間の安全保障
- 第8回 エスニシティ
- 第9回 国際組織
- 第10回 グローバリゼーション
- 第11回 地域統合
- 第12回 多文化主義
- 第13回 情報ネットワーク
- 第14回 地球環境
- 第15回 新しい国際関係の分析に向けて

● 事前事後学習

事前学習においては、テキストを読んで、疑問・質問事項をまとめておくこと。

事後学習においては、疑問・質問事項の回答をまとめて、レポート課題にして提出すること。

● テキスト

初瀬龍平、定形衛、月村太郎編『国際関係論のパラダイム』(有信堂)2001年

● 参考資料

テキストの中に明記。

● 成績評価方法

課題レポート報告:50%、出席:50%

● **その他留意事項**

講義中の議論に備えて、事前学習を十分に行うこと。

文化マネジメント特論

柴崎全弘

●講義概要

外国人が日本に興味をもつようになったきっかけは時代と共に変化しており、昔は日本の文学・歴史・宗教・社会・経済などが主であったが、90年代後半からは日本のポップカルチャーを挙げる人が増えてきている。また2010年代からはクールジャパンの掛け声のもとに、日本のマンガ・アニメ・ゲーム等を海外に売り込む戦略が練られるようになってきている。

この講義では、日本のポップカルチャーについての理解を深めつつ、日本の魅力を世界に発信する方法論について考えていく。

この講義は、本学のディプロマ・ポリシー【知識・技能】のうち「日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付ける」ことを主な目的とする。

●学修到達目標

日本のポップカルチャーやクールジャパン戦略についての理解を深め、その特徴や魅力を簡潔に説明できるようになる。

●講義計画

- 第1回 世界からみた日本の魅力とは
- 第2回 海外映画に描かれる日本のイメージ
- 第3回 日本の「おもてなし」文化
- 第4回 日本のポップカルチャー
- 第5回 クールジャパンとは何なのか
- 第6回 「クール・コリア戦略」に学ぶ国主導の文化政策
- 第7回 アイドルに未熟さを求める日本と完璧さを求める韓国
- 第8回 日本の推し活文化とその経済効果
- 第9回 なぜJ-POPやJ-ROCKは海外では通用しないのか
- 第10回 「萌えキャラ」と「ゆるキャラ」：カワイイの基準は世界共通か
- 第11回 日本のゲーム史：パックマンからポケモンまで
- 第12回 マンガの主人公像と時代的背景との関係性
- 第13回 日本アニメの特徴と海外進出
- 第14回 なぜ今、昭和レトロがブームになっているのか
- 第15回 これからの日本は何を売りにすればよいのか

●事前事後学習

講義前にレジュメを読み込み、ディスカッションに備える。講義後は感想や疑問点をノートにまとめておく。

●テキスト

毎回レジュメを配布する。

●参考資料

授業内で適宜紹介する。

●成績評価方法

平常点 50%＋期末レポート 50%

NGO・NPO特論

田浦 健朗

● 講義概要

地球規模の環境問題である気候変動・地球温暖化が極めて深刻になり、「気候危機」という認識も広がっている。この危機に対して世界中のユース世代が解決に向けた声を上げている。この講義では、気候危機問題に焦点をあて、解決に向けた重要なセクター・組織であるNGO・NPOについて学び、克服のための方策について考えることを目的とする。世界全体では、人口増加、貧困と格差問題、紛争、難民などが深刻な課題であり、持続可能な社会への転換が模索されている。気候変動問題に関しては、「パリ協定」が2016年11月に発効し、脱炭素と再生可能エネルギー100%に向けて大きく転換しはじめている。2023年に開催されたCOP28では、「化石燃料からの脱却」が合意され、世界が新しい方向に向かうことになってきた。国内では、人口減少・高齢化が進みつつある状況で、新しい社会・経済制度の構築、産業構造・生活様式の転換が必要である。「2050年カーボンニュートラル宣言」が2020年10月だされたが、その実現に向けた課題も多い。これらの課題解決に向けて、国際社会、国レベル、地域レベルの地球温暖化防止のための政策や制度、そして地球温暖化防止に取り組んでいるNGO・NPOの現状を把握し、その使命や役割、課題について学び、議論する。講義は隔週になるので、各回のテーマに関する基礎知識を共有し、報告・ディスカッションを行う。

● 学修到達目標

NGO・NPOの視点・ビジョン・使命を理解し、現実社会の課題を発見・分析し、課題解決のための基礎的な能力を獲得すること。日本国内の公共政策・社会制度とNGO・NPOに関する理解の深化と、国際的な比較による社会的課題を整理する能力を獲得すること。

● 講義計画

- 第1回 オリエンテーション、NGO・NPOとは
- 第2回 気候変動・地球温暖化問題について
- 第3回 気候変動に関する国際交渉におけるNGO・NPO
- 第4回 気候変動対策に関する国際動向
- 第5回 エネルギー問題、再生可能エネルギーとNGO・NPO
- 第6回 再生可能エネルギー普及事例
- 第7回 地域貢献型新電力と中間支援組織
- 第8回 脱炭素地域づくりとNGO・NPO
- 第9回 地域の課題・活性化とNGO・NPO
- 第10回 国内の気候変動政策とNGO・NPO
- 第11回 家庭・オフィスの気候変動対策とNGO・NPO
- 第12回 パートナリシップとネットワーク
- 第13回 ユース世代・気候正義
- 第14回 NGO・NPOの役割・課題
- 第15回 NGO・NPOの今後の展望、まとめとレポート提出

● 事前事後学習

事前には参考文献を参照し、事後にはレビューと次週までの課題について調査する。

● テキスト

平尾剛之・内田香奈編著『京都発NPO最善戦』京都新聞出版センター、2018

● 参考資料

安田陽著『2050年再エネ9割の未来』山と溪谷社、2025

宮西元著『NPOとは何か』中公新書、2024

東京大学気候と社会連携研究機構編『気候変動と社会』東京大学出版会、2024

西岡秀三他編著『まっとうな気候政策へ』地平社、2024

諸富徹著『税という社会の仕組み』ちくまぷりまー新書、2024

坂本治也編著『日本の寄付を科学する』明石書店、2023

クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン編『気候変動を学ぼう』合同出版、2023

櫻田彩子著『私はエコアナウンサー』本の泉社、2023

共生エネルギー社会実装研究所編著『脱炭素の論点』旬報社、2023

日本経済新聞社編『第4の革命カーボンゼロ』日本経済新聞出版、2023

カーボン・アルマナック・ネットワーク編『カーボン・アルマナック』日経ナショナルジオグラフィック、2022

グレタ・トゥーンベリ編著『気候変動と環境危機』河出書房新社、2022

岸本聡子『私がつかんだコモンと民主主義』晶文社、2022

三上直之『気候民主主義』岩波書店、2022

堀内都喜子『フィンランド幸せのメソッド』集英社新書、2022

NIKKEI Financial 編『ESGの奔流』日本経済新聞社、2022

ノーム・チョムスキー他『気候危機とグローバル・グリーンニューディール』、那須里山舎、2021

国際環境NGO FoE Japan『気候変動から世界をまもる30の方法』、合同出版、2021

ポール・ホーケン編著『ドローダウン地球温暖化を逆転させる100の方法』、山と溪谷社、2021

斎藤幸平『人新世の「資本論」』、集英社新書、2020

宇佐美誠編『気候正義』、勁草書房、2019

気候ネットワーク編『石炭火力発電Q&A 脱石炭は世界の流れ』、かもがわ出版、2018

他

● 成績評価方法

課題の提出・報告と議論への参加(60%)。最終レポート(40%)。

● その他留意事項

講義計画は、変更する場合がある。

国際機構特論(国際情勢の変化における多国間機構の役割)

中野 有

● 講義概要

本講義は、激動する国際情勢の変化における国際機構の役割を多角的・重層的視点で理解し、国際機構の基礎理論を習得することを目的とする。出来るだけ分かり易い講義を理論と実務の統合を重視したアクティブラーニング形式で行う。

現代の国際情勢は、前例のない不安定さに覆われている。これは、ウクライナ戦争、イスラエルとハマスの戦争並びに中東の緊張のエスカレーション、北朝鮮による挑発的なミサイル発射と核開発の進展などの出来事によって特徴づけられる。さらに、去年は世界中の重要な選挙が行われ、政権交代並びに欧米では極右政党が躍進した。国際安全保障、政治、経済、社会の行方を大きく左右することになる。また、急速に進歩する生成型 AI と高まる環境問題は、これらの世界的な課題に更なる複雑さを加えている。このような文脈の中で、これら多面的な課題をナビゲートし解決するために、国際機関の役割がますます重要かつ期待されている。

講義の達成目標は、国連機構を基軸とする平和構築の探求にある。講師の 20 年以上の中東、オーストラリア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの海外駐在のフィールド経験、加えてウィーンに本部のある国連工業開発機構や世界のトップクラスのシンクタンクであるブルッキングス研究所、東西センターや開発コンサルタントの多角的な経験をベースに、単なるアカデミズムの探究のみならず、実践的であり、現在進行形の地政学的研究を通じ世界の潮流を把握するのに役立つ講義を行う。

● 学修到達目標

- ・ 国際情勢の変化を多角的・重層的視点で洞察する能力を養う
- ・ 現在進行形の国際事情に精通する
- ・ 自分の頭で考え国際協力に関するビジョンを形成

● 講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 国際機構の諸理論
- 第 3 回 グローバル・イングリッシュ
- 第 4 回 リベラルアーツ、哲学的考察
- 第 5 回 国連機構 アフリカ、途上国の開発
- 第 6 回 地球環境問題、エネルギー安全保障、食糧の安全保障
- 第 7 回 国連外交、予防外交、人間の安全保障、ソフトパワー、スマートパワー
- 第 8 回 米国のシンクタンク、多国間外交
- 第 9 回 日本と国連外交
- 第 10 回 国際機構の基礎理論の構築
- 第 11 回 国連機構 ケーススタディ
- 第 12 回 国連機構 ケーススタディ
- 第 13 回 国連機構 ケーススタディ
- 第 14 回 総括
- 第 15 回 総括

● 事前事後学習

国際情勢の変化を観察するために、新聞(朝日、読売、日経、毎日、産経、ニューヨークタイムズ)の社説を読む。また CNN、BBC のニュースを観る。事前事後ともこの習慣を継続する。

● **テキスト**

国際関係に関する文献のエッセンスを約 30 配布する

● **参考資料**

ガイダンスにて説明

● **成績評価方法**

平常点 50% プレゼンテーション 50%

● **その他留意事項**

自分の頭で考え、多くの文献に精通し、積極的にプレゼンテーションする能力を養う。

アジア中国社会文化特論

顧 令儀

● 講義概要 (Course Description)

中国社会を考察する際に、中央と地方の関係は一つの重要な課題である。本授業は「妖術」という社会的事件に対する清王朝政府の対応を通して、中央政府、地方官僚と民衆の認識と行動及び複雑な関係を考察することで、近代中国社会における政治、文化、権力構造等を総合的に理解し、歴史的アプローチ方をマスターすることを目的とします。

講義は、関係文献を読み、発表し、討論する形で行います。初回の授業で、メンバーの状況を確認した上で進め方を決めます。

● 学修到達目標 (Main Goals)

近代中国社会文化についての知識を身につける。

中国社会の政治、文化、権力構造についての認識を深めている。

中国社会文化を考察する際に、複数の側面から、より広い視野を持って分析できる。

● 講義計画 (Course Schedule)

- 第一回 オリエンテーション・講義の進め方
- 第二回 乾隆期の「妖術」事件
- 第三回 乾隆期の社会・政治背景
- 第四回 中国文化における「魂」とは
- 第五回 「魂」への民間信仰
- 第六回 地方社会での恐慌の蔓延と社会秩序の崩壊
- 第七回 地方官僚の対応
- 第八回 中央政府の対応
- 第九回 乾隆帝の見え隠れの「敵」
- 第十回 乾隆期の外来人口に対する認識
- 第十一回 清王朝地方統治の特徴と課題
- 第十二回 「妖術」事件の終結
- 第十三回 官僚体系での清算
- 第十四回 「妖術」事件に対する異なる階層の認識
- 第十五回 まとめ：乾隆期「官僚君主制」の実態と矛盾

● 事前事後学習 (Preparation and Review)

講義の予習と復習は、授業の倍から二倍の時間が必要です。

講義の前に教材(プリント配布)を読んでおき、内容について自分の考えをまとめてから講義に臨んでください。講義終了後、示された課題について調べ、考えをまとめてください。

● テキスト (Required Textbooks)

初回の授業でプリントを配布します。

● 参考資料 (References)

Philip A. Kuhn(孔飛力), 1990, 『叫魂:1768 年中国妖術大恐慌』, 陳兼訳, 三聯書店, 2014 年。

費孝通, 1948, 『郷土中国』西澤 治彦訳, 風響社, 2019 年。

上記以外に、授業中に指定するものもあります。

● 成績評価方法 (Evaluation)

授業参加(50%)

課題レポート(25%)

事前事後学習(25%)

● **その他留意事項(Other Matters)**

講義では積極的に思索し、発言してください。欠席はしないこと。

異文化間コミュニケーション特論

C. M. メイヨー

● Course Overview 講義概要

グローバル化が急速に進展する現代社会において、異文化との対話は単なる交流を超え、持続可能な共生を実現するための不可欠な手段である。本講義は、国際文化の概念とその変遷を理論的・実践的に探究し、グローバル文化の多様性や複雑性、異質性と共通性、同化と融合などのテーマを包括的に学ぶ場を提供する。その目的は、グローバリゼーションの本質を深く理解し、異文化環境において効果的かつ柔軟に行動できるコミュニケーション能力を養成することである。院生は、異文化理解を深化させる理論と実践を多角的に学び、文化的多様性の中で自己と他者の関係性を再定義する視点を身につける。本講義を通じて、異文化間で生じる誤解や衝突の構造を解明し、それを克服するための具体的な方法論を学ぶことで、多文化社会における有意義な対話と協働を実現するための力を育成する。本講義は日本語で行われ、日本語による資料と解説を使用する。

本講義は、国際文化協力専攻ディプロマ・ポリシーのうち、「国際文化学の理論と応用に精通し、学術的な研究能力と論文作成能力を身につけている」に関連した科目である。また、カリキュラム・ポリシーの「国際協力、国際交流、国際関係に関する深い知識と教養を身につけるための国際文化協力領域」科目に該当する。

● Learning Objectives 学習到達目標

多文化社会で主体的かつ有能に行動するためには、広い視野と深い洞察力が不可欠である。本講義では、院生が異文化間コミュニケーションの理論と実践を通じて、国際文化や国際協力、国際支援に関する学びの基盤を形成することを目指す。特に、多文化社会が抱える課題と可能性を体系的に理解し、文化的誤解や衝突のメカニズムを論理的に分析する能力を身につけることを重視する。また、学術研究に必要な手法を習得し、学術的かつ実践的な視点から質の高い論文やレポートを作成するスキルを培うことが求められる。さらに、自己の文化的前提を批判的に見直すことで、グローバルな視点を広げ、異文化環境への柔軟な適応力と実践的なコミュニケーション能力を向上させる。本講義を通じて、院生は多文化社会の持続可能な発展に寄与するための実践的スキルと視野を獲得することが期待されている。

● Lecture Plan 講義計画

1. What is Intercultural Communication? 異文化間コミュニケーションとは？
2. Key Elements of Intercultural Communication 異文化間コミュニケーションの核心要素
3. Research Methodologies for Intercultural Communication 異文化間コミュニケーション研究の方法論
4. Challenges in Intercultural Communication 異文化間コミュニケーションにおける課題
5. Media and Cultural Perceptions メディアと文化的認識
6. Comparative Analysis in Culture and Communication 比較による文化とコミュニケーションの分析
7. Linguistic Aspects of Intercultural Communication 言語的要素と異文化コミュニケーション
8. Nonverbal Communication Across Cultures 異文化間の非言語コミュニケーション

9. Negotiation and Conflict Resolution in Business 異文化ビジネス交渉と衝突解決
10. Expatriation and Contractual Communication 駐在と契約におけるコミュニケーション
11. Training Programs for Intercultural Communication 異文化間コミュニケーションのための研修プログラム
12. Zen and Asian Perspectives on Intercultural Communication 禅とアジア的異文化間コミュニケーション観
13. Translation and Interpretation as Intercultural Communication 通訳・翻訳における異文化間コミュニケーション
14. Globalization and Cultural Interaction グローバル化と文化の相互作用
15. Final Reflections on Intercultural Competence 異文化コンピテンスの総括

● Class Preparation and Review 事前事後学習

事前学習として、配信される資料の指定部分は必ず読み、それについての見解をもって授業に臨むこと。また、現代異文化コミュニケーションの問題を観察するために、新聞(朝日、読売、日経、毎日、産経、Japan News など)の社説を読んだり、NHK、CNN、BBC などのニュースを観たりする習慣を継続する。

事後学習として、授業資料と自身のノートを見直し、毎授業時に配布される補足プリント教材を読んで理解すること。

● Textbook テキスト

Kosaka Takashi 小坂貴志. *Kaiteiban ibunka komyunikēshon no A to Z: Riron to jissen no ryōmen kara wakaruru* 改訂版異文化コミュニケーションの A to Z: 理論と実践の両面からわかる. Tokyo 東京: Kenkyūsha 研究社, 2017. ISBN-13: 978-4327421984

● Reference Materials 参考資料

必要に応じて授業時に適宜紹介したり、配布したりする。

● Other Notes その他留意事項

すべての授業に遅刻せず出席することが求められる。また、授業中は教員の発言を正確に理解し、必要に応じてノートを取ることで、次回の授業に備えて予習や復習を行うことが重要である。本講義はアクティブ・ラーニング(学生参加型)形式で進められるため、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションが課される。さらに、毎回リアクションペーパーの提出を求め、提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業時に行う。

● Evaluation Method 評価方法

講義時の平常点(講義中の質疑応答やディスカッション等)(20%)、リアクションペーパー(20%)、最終レポート(60%)にて評価する。

国際文化特論

張 勤

● 講義概要(目的と内容・方法)(Course Description: Purpose, Content and Method)

グローバルが進むこんにちにおいて、社会構成員の行動様式と生活様式を規制するそれぞれの社会の固有文化は、地域や国の境界を超えて、お互いに干渉し合い、共存する方向へと進んでいます。国際的な視野から、民族、宗教、移民、言語などに関わる文化事象を観察する際に、異文化共存の視点も極めて重要なものとなります。

この講義は、このような視点から、特に言語に関わる文化事象として翻訳を取り上げ、翻訳の実際と可能性を通して、異文化共存のあり方について考えていき、そこに存在する問題を把握し、認識を深めることを目的とします。

講義は、全員で関係論文を読み、履修者分担で論点の分析と見解を発表し、全員でディスカッションを行う、という形で行います。初回の講義で、メンバーの状況を確認した上で、スケジュールを決めます。

● 学修到達目標(Aim of This Course)

グローバル化が進む中、異なる文化が如何に干渉し合うことについて認識を深めている。

異文化コミュニケーションの可能性と問題点について理解を深めている。

異文化コミュニケーションにおける翻訳の可能性と問題点について理解を深めている。

● 講義計画(Course Schedule)

第1回(第1週) オリエンテーション・講義の進め方・スケジュール

第2回(第1週) 翻訳の国際文化的な側面

第3回(第2週) (論文研究) 文学翻訳における言語の問題について(1)

第4回(第2週) (論文研究) 文学翻訳における言語の問題について(2)

第5回(第3週) (論文研究) 文学作品の翻訳に見る異文化伝達法(1)

第6回(第3週) (論文研究) 文学作品の翻訳に見る異文化伝達法(2)

第7回(第4週) (論文研究) コーパスに見る翻訳における「明示化」の特徴(1)

第8回(第4週) (論文研究) コーパスに見る翻訳における「明示化」の特徴(2)

第9回(第5週) (論文研究) 相互行為としてのメディア翻訳(1)

第10回(第5週) (論文研究) 相互行為としてのメディア翻訳(2)

第11回(第6週) (論文研究) テーマ発表(1)

第12回(第6週) (論文研究) テーマ発表(2)

第13回(第7週) (論文研究) テーマ発表(3)

第14回(第7週) (論文研究) テーマ発表(4)

第15回(第8週) ディスカッション・まとめ

● 事前事後学習(Preparation & Review)

講義の予習と復習は、授業の二倍の時間が必要です。

講義の前に論文を読んでおき、内容について自分の考えをまとめてから講義に臨んでください。

講義終了後、示された課題について調べ、考えをまとめてください。

● テキスト(Required Textbooks)

初回の講義で論文のプリントを配布します。

● 参考資料(References)

明石元子・Hadley James 著名翻訳家・テキスト分析・可視性概念―村上春樹にみる同化・異化論の進展―『通訳翻訳研究』14.

篠原有子 本映画の英語字幕における訳出要因について―制作プロセスと視聴者に着目して『通訳翻訳研究』14.

新崎隆子・石黒弓美子 日本語発話の解釈:CMM 理論の日英通訳指導への応用『通訳翻訳研究』12.

平子義雄 翻訳の原理―異文化をどう訳すか、大衆館書店.

古川弘子 女ことばと翻訳『通訳翻訳研究』13.

牧野成一 日本語を翻訳すること―失われるもの、残るもの(中公新書).

矢田陽子 言語表象文化と翻訳 ―『たそがれ清兵衛』英語・スペイン語映像翻訳の記号学的考察―『メディア・英語・コミュニケーション』3 巻 1 号.

山本一晴 多文化共生施策における行政情報の多言語化『通訳翻訳研究』11.

山本史郎 翻訳の授業 東京大学最終講義(朝日新書).

● 成績評価方法(Course Evaluation Methods)

論文研究発表・講義参加(50%)

期末課題レポート(25%)

事前事後学習(25%)

● その他留意事項(Other Matters)

講義では積極的に思索し、発言してください。欠席はしないこと。

日本文化特論

鹿毛 敏夫

● 講義概要

日本の文化は、周辺のアジア諸国・諸地域との接触のなかで育まれてきた。日本と日本人の歴史文化を考えるうえでアジアとの交流と相互影響の考察は欠かせない視点であり、現代の複雑な国際関係を理解するためにも、過去のアジア交流についての正確な理解が必要である。本講義では、前近代における日本とアジア諸国・諸地域との文化交流の歴史を東アジアから東南アジアにまたがる環シナ海文化圏の広がりの中で考察・理解する。

● 学修到達目標

前近代における日本とアジア諸国・諸地域との文化交流の歴史を理解し、アジア世界における日本文化の位置づけを史的背景のもとに考察・説明することができる。

● 講義計画

- 第1回 日本文化と唐・宋・元
- 第2回 室町文化と中華
- 第3回 日明関係
- 第4回 守護大名の遣明船派遣
- 第5回 遣明船と倭寇
- 第6回 遣明船は何を運んだか
- 第7回 九州産硫黄の爆売り
- 第8回 硫黄産地の社会構造
- 第9回 「サルファーラッシュ」から「シルバーラッシュ」へ
- 第10回 渡来「唐人」の活動
- 第11回 「唐人」仏師と豊臣政権
- 第12回 中世社会の唐人文化
- 第13回 九州大名の東南アジア外交
- 第14回 南蛮文化
- 第15回 アジアのなかの日本文化

● 事前事後学習

各回での学習事項を復習し、次回のテーマについてテキストを読んで予習をしてくること。発表者はプレゼンテーション資料を適切にまとめること。

● テキスト

鹿毛敏夫著『アジアのなかの戦国大名―西国の群雄と経営戦略―』吉川弘文館、2015

● 参考資料

- 羽田正著『新しい世界史へー地球市民のための構想―』岩波書店、2011
- 村井章介著『増補中世日本の内と外』筑摩書房、2013

● 成績評価方法

平常点70%（課題発表40% ディスカッション30%）、レポート30%

比較文化社会特論

佐竹 眞明

● 講義概要

東南アジアのフィリピンの文化社会に関して、理解を深め、日本との比較を試みる。授業においては、テキスト・論文を輪読し、教員が補足・解説しながら、内容を検討する。活発な討論を期待したい。

● 学修到達目標

フィリピンの文化社会への理解を深める。今年度は特にフィリピン政治の現代史を中心に学習していく。そして、日本との関係を踏まえ、どのような関係を築いていくのか、をともに考える。

● 事前事後学習

教科書『フィリピンの民主主義ーピープルズパワー革命からの 40 年』の「序章」を読んでおくこと。

● 講義計画

第1回 授業説明 オリエンテーション

第2回 フィリピンの紹介

第3回 『フィリピンの民主主義』第 1 章フィリピンの「発見」から独立、独裁まで」の輪読

第4回 「第 2 章 エドサ政変からふたつめのアキノ政権まで」輪読

第5回 「第3章 ドゥテルテの登場と麻薬撲滅戦争」輪読

第6回 「第 4 章 政敵排除と報道の抑圧」輪読

第7回 「第 5 章 史上最高のドゥテルテ人気とその秘密」輪読

第8回 「第 6 章 ボンボン政権の誕生とソーシャルメディア選挙」輪読

第9回 「第 7 章 ピープルパワー神話の終焉と新たな物語の誕生」輪読

第 10 回 「第 8 章 歴史修正と政権交代の意味」輪読

第 11 回 「第 9 章 東南アジアで広がる権威主義と民主主義の衰退」輪読

第 12 回 ボンボン政権 サラ・ドゥテルテ副大統領との確執

第 13 回 日本の政治 日本との関係

第 14 回 日本との関係(日米比関係ー領土問題をめぐり)

第 15 回 予備

● テキスト

柴田直治『ルポ フィリピンの民主主義ーピープルズパワー革命からの 40 年』岩波新書、2024.
(1000 円＋税)

参考

佐竹眞明『フィリピンと日本・戦争、ODA、政府、人々』、梨の木舎、2023

大野卓司・鈴木信隆・日下渉『フィリピンを知るための 64 章』明石書店 2016

『歴史地理教育』2014 年 9 月号 第 824 号(特集 もっと知ろうフィリピン)

● 成績評価方法

課題レポート 60% 出席 30% 平常点 10%

● **特記事項**

テキストは購買などで購入の事。

多文化共生特論

宮坂 清

● 講義概要

現代のグローバル化は、国境を越えた人の移動や文化の交流を活発化させる一方で、異なる文化的背景を持つ人々の共生をめぐる課題を生じさせている。本講義はそうした課題に対応するため、理論的な枠組みと実践的な事例を通じて多文化共生を理解することを目的とする。そして異文化や異なる社会的背景を持つ人々との共生をテーマとし、「よそ者／ストレンジャー」という概念を核に、多文化共生の理論的基盤と実践的アプローチを探求する。講義は3つのセクションに分かれる。第1セクションでは、ジンメル、シュッツ、バウマンといった社会学者や哲学者による「よそ者論」を体系的に学ぶ。第2セクションでは、日本の地域社会における具体的な事例を検討し共生の可能性を模索する。第3セクションでは、各国の移民政策を分析し、多文化共生を実現するための具体的な方策や課題に焦点を当てる。

● 学修到達目標

多文化共生に関する理論的枠組みを理解し、具体的事例や移民政策を通じて異文化間の共生の課題を分析し、実践的な解決策を提案できる能力を身につける。

● 講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 よそ者／ストレンジャー理論(1):ジンメルのよそ者論
- 第3回 よそ者／ストレンジャー理論(2):マージナル・マン論
- 第4回 よそ者／ストレンジャー理論(3):シュッツのよそ者論
- 第5回 よそ者／ストレンジャー理論(4):バウマンのストレンジャー論
- 第6回 よそ者／ストレンジャー理論(5):アーリのモビリティ論
- 第7回 日本における共生の実例(1):地域社会の多国籍化・多文化化への対応
- 第8回 日本における共生の実例(2):外国人住民に対する日本語教育
- 第9回 日本における共生の実例(3):外国からきた労働者
- 第10回 日本における共生の実例(4):外国人介護人材の受け入れ
- 第11回 日本における共生の実例(5):地域社会と宗教コミュニティ活動
- 第12回 各国の移民政策(1):日本の移民政策
- 第13回 各国の移民政策(2):韓国・中華民国の移民政策
- 第14回 各国の移民政策(3):ドイツ・カナダの移民政策
- 第15回 各国の移民政策(4):国際養子家族

● 事前事後学習

■ 事前学習

授業までにテキストを熟読する。本講義の方針に従ってテキストの要点をまとめ、また疑問点や議論すべき点を整理する。

■ 事後学習

授業で学んだことをまとめる。自身の研究にどのように活かせるかを考える。

● **テキスト**

徳田剛 2020, 『よそ者／ストレンジャーの社会学』晃洋書房。

徳田剛/二階堂裕子/魁生由美子編 2023, 『地方発 多文化共生のしくみづくり』

● **参考資料**

必要に応じて配布する。

● **成績評価方法**

授業での発言や貢献:60%、課題レポート 40%。

宗教・思想・文化特論

神山 美奈子

● 講義概要

本講義は、本学の建学の精神である「敬神愛人」を深く学び、その背景にある聖書の基本的な知識(キリスト教の神、聖書、礼拝、祈り、信条、死生観、フェミニズム、人権問題や多様性の捉え方など)について学びます。聖書を読み、その時代背景や思想的背景を知った上で疑問に思うことを共有し、聖書が何を語ろうとしているのかを共に考えます。

● 学修到達目標

キリスト教の基本的な知識を習得し、宗教間対話、宗教思想、宗教における平和について理解することができる。

● 講義計画

- 第1回 ガイダンス:宗教(キリスト教)を学ぶ意義
- 第2回 建学の精神を学ぶ:「神」と「敬神」
- 第3回 建学の精神を学ぶ:「愛」と「隣人愛」
- 第4回 建学の精神を学ぶ:創立者と思想
- 第5回 聖書に関する基本的な知識
- 第6回 讃美歌とキリスト教会
- 第7回 礼拝と祈り
- 第8回 信条、洗礼、聖餐
- 第9回 中間確認レポート
- 第10回 発表 イエスの生涯:クリスマス(降誕)
- 第11回 発表 イエスの生涯:十字架(贖罪)
- 第12回 発表 イエスの生涯:イースター(復活)
- 第13回 発表 イエスの生涯:ペンテコステ(弟子)
- 第14回 宗教間対話と平和思想
- 第15回 授業総括

● 事前事後学習

- ①教科書である「聖書」に親しみを持つためにも聖書をよく読むこと。受講前には該当箇所を目を通し、受講後には学んだ部分を再度読み返すこと。
- ②毎週火曜日・木曜日に行われるチャペルアワー出席、その他クリスマス礼拝など特別な礼拝に積極的に出席すること。

● テキスト

『聖書(新共同訳)』日本聖書協会(翻訳は口語訳や協会共同訳でも良い)

● 参考資料

- 『現代を生きるキリスト教-もうひとつの道から』芦名定道・土井健司・辻学、教文館、2012年
- 『現代神学の冒険』芦名定道、信教出版社、2020年
- 『キリスト教って何なんだ?』上馬キリスト教会ツイッター部、ダイヤモンド社、2022年(第3刷)
- 『メソジストって何ですか-ウェスレーが私たちに訴えること』清水光雄、教文館、2007年

● 成績評価方法

講義への主体的参加、発表、発言 60点、期末レポート 40点

● その他留意事項

なし

研究方法論

佐竹 眞明

● 講義概要

国際文化協力専攻の修士課程に入学した諸君は所定の授業を履修し、さらに、修士論文を執筆しなければならない。共通科目、国際文化、国際文化協力の分野において、学問を深め、自分の関心に基づいて修士論文を執筆する。このように、学部を修了した諸君は専門の研究に入っていくこととなる。

この授業では研究のスタートにたった諸君が修士論文を執筆するために身につけなければならない思考方法、倫理などについて、検討していく。独自の思考に基づき、独創性を持ち、説得力を持ち、論文を組み立てる必要がある。今年度は梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』（高管出版、2013）を用いながら、研究姿勢、思考方法、論文作成の方法を学習していく。また、受講生に研究計画を報告してもらい、研究方法上の助言を提供する。

● 学修到達目標

- ・受講生は自分の研究の意義、目的を説明できることができる。
- ・受講生は研究方法の基礎を習得する。
- ・受講生は修士論文を執筆する基本的な方法を習得する。

● 事前事後学習

教科書『研究ってなんだろう』の「はじめに」を読んでおいてください。

● 講義計画

- 第1回 プロローグ 自己紹介 授業の進め方説明
- 第2回 テキスト第1章 研究について考えよう—準備編 1節 研究って何だろう
- 第3回 2節 研究の全体像をつかもう
- 第4回 3節 研究を始めるために準備しよう
- 第5回 第2章 研究を進めよう—実践編 1節 研究テーマを決める
- 第6回 2節 先行研究のレビュー
- 第7回 3節 研究計画を立てる
- 第8回 同
- 第9回 受講生による研究計画 発表
- 第10回 同
- 第11回 4節 調査の実施
- 第12回 5節 分析・考察
- 第13回 6節 論文としてまとめる
- 第14回 7節 実践につなげる
- 第15回 これから

● テキスト

梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』（高管出版、2013）定価本体 1500 円＋税 丸善にて購入し、授業初回に持参すること。

参考書

井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門』、慶応義塾大学出版会、2021

● **成績評価方法**

授業への参加度を重視する。レポート。

国際文化協力特別研究Ⅰ（日本歴史・文化）

鹿毛 敏夫

● 演習概要（研究テーマ：日本の歴史・文化の研究）

日本の歴史の展開過程を総合的に考察するとともに、特に日本史特有の「武家社会」の特質を取りあげて、その文化的背景とともに合理的に理解する。また、歴史文学作品を講読して、その正確な内容理解に努めるとともに、史実に沿った批判的考察を進め、時代の認識や捉え方について議論を深める。演習を通して、論理的思考力を培い、みずから史料を分析・考察して歴史研究を進める技術と能力を高める。

● 学修到達目標

日本史の史的展開過程における「武家」の時代の特質を理解するとともに、日本の歴史と文化への関心を深め、先行研究を踏まえながら自身の論文執筆への明確な意識を獲得することを目標とする。

● 演習計画

前期)	後期)
第 1-2 回 日本史研究の対象	第 1-2 回 文献講読⑤「交易」
第 3-4 回 時代の変遷と特徴	第 3-4 回 文献講読⑥「異宗教」
第 5-6 回 武家社会の特質	第 5-6 回 文献講読⑦「水軍」
第 7-8 回 文学から史実を読み取る	第 7-8 回 文献講読⑧「京都」
第 9-10 回 文献講読①「武士」	第 9-10 回 文献講読⑨「豪商」
第 11-12 回 文献講読②「戦国」	第 11-12 回 文献講読⑩「九州」
第 13-14 回 文献講読③「南蛮」	第 13-14 回 日本の歴史・文化の特質
第 15 回 文献講読④「異文化」	第 15 回 演習の総括

● 事前事後学習

テキストを事前に講読し、不分明な歴史事象について調べておくとともに、毎回の講義で学習した内容を復習し、再確認しておく必要がある。

● テキスト

安部龍太郎著『宗麟の海』NHK出版、2017 年

● 参考資料

村井章介著『世界史のなかの戦国日本』筑摩書房、2012 年

鹿毛敏夫著『大航海時代のアジアと大友宗麟』海鳥社、2013 年

静永健編『東アジア海域に漕ぎだす 6 海がはぐくむ日本文化』東京大学出版会、2014 年

● 成績評価方法

授業時の発表・討議と課題レポートで総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅰ（平和・ジェンダー・文化）

佐伯 奈津子

● 講義概要

本研究では、修士論文作成に向け、学生自身の関心を明確にし、研究計画を立てることをめざす。前期は、研究テーマの設定、仮説の設定、調査方法（文献資料の渉猟、アンケート調査、聞き取り調査など）、研究倫理について学んだうえで、学生の関心に沿って、先行研究のレビューをおこなう。そのうえで、後期は、研究の背景、研究の意義（特色）、研究の方法など、研究計画を立てながら、修士論文の構成を検討する。

● 学修到達目標

- ・研究方法を学び、研究計画を立てることができる。
- ・自身の研究の意義や目的を説明することができる。

● 講義計画

（前期）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定
- 第3回 調査方法（文献資料の渉猟）
- 第4回 調査方法（アンケート調査）
- 第5回 調査方法（聞き取り調査）
- 第6回 研究にあたっての心構え
- 第7回 先行研究レビュー①
- 第8回 先行研究レビュー②
- 第9回 先行研究レビュー③
- 第10回 先行研究レビュー④
- 第11回 先行研究レビュー⑤
- 第12回 先行研究レビュー⑥
- 第13回 先行研究レビュー⑦
- 第14回 先行研究レビュー⑧
- 第15回 まとめ

（後期）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 先行研究レビュー⑨
- 第3回 先行研究レビュー⑩
- 第4回 先行研究レビュー⑪
- 第5回 先行研究レビュー⑫
- 第6回 先行研究レビュー⑬
- 第7回 先行研究レビュー⑭
- 第8回 研究計画を立てる（研究の学術的背景）
- 第9回 研究計画を立てる（研究の目的、独自性、創造性）
- 第10回 研究計画を立てる（研究の着想にいたった経緯）
- 第11回 研究計画を立てる（研究の位置づけ）

第12回 研究計画を立てる(研究でなにを明らかにするのか)

第13回 修士論文の構成を考える①

第14回 修士論文の構成を考える②

第15回 まとめ

● **事前事後学習**

事前学習では、テキストを読み、概要・疑問点をまとめる。

事後学習では、自身の研究テーマにひきつけて、論点を整理する。

● **テキスト**

受講生の研究テーマに応じて、講義時に提示する。

● **参考資料**

受講生の研究テーマに応じて、講義時に提示する。

● **成績評価方法**

受講態度(発表・ディスカッション)において総合的に評価する

国際文化協力特別研究 I(国際移民・文化)

佐竹 眞明

● 演習概要

国際文化協力専攻の修士課程に入学した諸君は所定の授業を履修し、さらに、修士論文を執筆しなければならない。共通科目、国際文化、国際文化協力の分野において、学問を深め、自分の関心に基づいて修士論文を執筆する。このように、学部を修了した諸君は専門の研究に入っていくこととなる。

この授業では研究のスタートにたった諸君が修士論文を執筆するために身につけなければならない思考方法、倫理などについて、検討していく。独自の思考に基づき、独創性を持ち、説得力を持ち、論文を組み立てる必要がある。

この授業では修士論文を2年間で書き上げるのに際し、1年目を迎えた学生に論文の基礎となるべく、修士論文の半分程度のゼミ論文を書いてもらう。すなわち、40字×35行(56000字)×40ページ以上という修士論文の半分程度(28000字程度)の基礎論文を書いてもらう。

今年度は梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013)を参考にしながら、研究姿勢、思考方法、論文作成の方法を学習していく。また、受講生に研究計画を報告してもらい、研究方法上の助言を提供する。

● 学修到達目標

- ・受講生は自分の研究の意義、目的を説明できることができる。
- ・受講生は研究方法の基礎を習得する。
- ・受講生は修士論文を執筆する基本的な方法を習得する。

● 事前事後学習

教科書『研究ってなんだろう』の「はじめに」を読んでおいてください。

● 演習計画

- 第1回 自己紹介 授業の進め方説明
- 第2回 テキスト第1章 研究について考えよう—準備編 1節 研究って何だろう
- 第3回 2節 研究の全体像をつかもう
- 第4回 3節 研究を始めるために準備しよう
- 第5回 第2章 研究を進めよう—実践編 1節 研究テーマを決める
- 第6回 2節 先行研究のレビュー(文献を集める)
- 第7回 3節 研究計画を立てる
- 第8回 同
- 第9回 受講生による研究計画(夏の過ごし方を含む) 発表
- 第10回 同
- 第11回 4節 調査の実施
- 第12回 5節 分析・考察
- 第13回 6節 論文としてまとめる
- 第14回 7節 実践につなげる
- 第15回 夏季休暇にあたっての注意事項
- 第16回 夏季休暇終了、秋学期にあたって
- 第17回 受講生 発表 夏季休暇における研究内容

- 第18回 はじめに(研究内容)の検討
- 第19回 第1章の検討
- 第20回 同
- 第21回 第2章の検討
- 第22回 同
- 第23回 第3章の検討
- 第24回 同
- 第25回 第4章の検討
- 第26回 同
- 第27回 注釈の意味 どのようにつけるか
- 第28回 文の検討 短文・改行など
- 第29回 全体の検討
- 第30回 ゼミ論文提出・要点発表

● **テキスト**

梅野潤子著『研究ってなんだろうーはじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013) 定価本体 1500 円＋税 丸善にて購入し、授業初回に持参すること。

● **参考書**

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000

佐竹眞明編著『在日外国人と多文化共生ー地域コミュニティの視点から』、明石書店、2011

● **成績評価方法**

授業への参加度を重視する。ゼミ論文の執筆。

国際文化協力特別研究Ⅰ（国際政治・文化）

増田 あゆみ

● 演習概要（研究テーマ：国際政治学研究）

本研究は、国際政治学を主とし、国際社会における現象を政治学の視座で、分析し、考察することを主たる目的とする。

研究の前半では、国際政治学の基本を基本的文献の講読、および議論をすることによって、熟知することに務める。研究の手法についても、この基本の修得に沿って、順次、研究テーマの設定、研究の方法論の検討等を考察していく。研究の後半においては、個々の受講生の研究テーマの設定、および、研究の経過報告を中心に、受講生間での議論を中心に、修士論文の指導を行う。

● 学修到達目標

受講生の研究テーマに基づいた実証的な研究を積み上げることができるようになること。

● 演習計画

前期

- 1) 国際政治学について
- 2) 研究テーマの設定について
- 3) 報告と議論
- 4) 指導
- 5) 報告と議論
- 6) 指導
- 7) 報告と議論
- 8) 指導
- 9) 報告と議論
- 10) 指導
- 11) 報告と議論
- 12) 指導
- 13) 研究テーマの検討
- 14) 研究テーマの検討
- 15) 総括

後期

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 報告と議論
- 3) 指導
- 4) 研究テーマの確認
- 5) 報告と議論
- 6) 指導
- 7) 研究テーマの確認
- 8) 報告と議論
- 9) 指導
- 10) 研究テーマの確認
- 11) 報告と議論
- 12) 指導
- 13) 研究テーマの再検討
- 14) 指導
- 15) 総括

● 事前事後学習

事前においては、毎回の講義時に使用する文献の予習、事後においては、講義内容の復習を行うこと。

● テキスト

『国際関係論入門：思考の作法』 初瀬隆平編著、法律文化社 2012年

● 参考資料

適宜、指示する。

● 成績評価方法

受講態度および修士論文において総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅱ（日本歴史・文化）

鹿毛 敏夫

● 演習概要（研究テーマ：日本の歴史・文化の研究）

日本の歴史の展開過程を総合的に考察し、その文化的背景とともに合理的に理解する。また、史実に沿った批判的考察を進め、時代の認識や捉え方について議論を深める。演習を通して、論理的思考を深め、みずから史料を分析・考察して歴史研究を進め、その成果を修士論文としてまとめる。

● 学修到達目標

日本の歴史と文化に関する先行研究を踏まえ、論理的思考を積み上げて、自身の修士論文を執筆・完成させることを目標とする。

● 演習計画

前期)

第 1-2 回 研究主題の策定

第 3-4 回 研究の構想

第 5-6 回 研究課題の抽出

第 7-8 回 先行研究の批判的考察①

第 9-10 回 先行研究の批判的考察②

第 11-12 回 先行研究の批判的考察③

第 13-14 回 史料の読み込みと解釈①

第 15 回 史料の読み込みと解釈②

後期)

第 1-2 回 史料の読み込みと解釈③

第 3-4 回 史料の位置づけと評価①

第 5-6 回 史料の位置づけと評価②

第 7-8 回 史料群の有機的結び付け①

第 9-10 回 史料群の有機的結び付け②

第 11-12 回 論理的思考の展開

第 13-14 回 著述の修正と加筆

第 15 回 研究の総括

● 事前事後学習

先行研究を事前に講読して問題点を抽出し、論証に必要な歴史史料を熟読して解釈・評価しておく必要がある。事後には、成果と課題を整理し、論証過程を文章化しておく必要がある。

● テキスト

適宜提示する。

● 参考資料

佐藤信編『古代史講義』筑摩書房、2018 年

高橋典幸・五味文彦編『中世史講義』筑摩書房、2019 年

● 成績評価方法

授業時の発表・討議と修士論文で総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅱ（中国言語・文化）

黄 名時

● 演習概要（研究テーマ：中国古今の言語文化へのアプローチ）

本研究の前期では、「国際文化協力特別研究Ⅰ」につづいて修士論文作成のための演習を行っていく。

オリジナルな論文を執筆するためには、その分野における新しい視点での独創性・創意性が要求されるため、テーマの決定にあたっては先行研究をしっかりと咀嚼した上で何が書けるのかを考える必要がある。授業では、受講生の各自設定したテーマと研究計画に従って関連資料の調査方法・分析方法および研究方法についてその手順を説く。

つづいて受講生にそれぞれ自分の研究テーマに基づく研究経過報告をしてもらうとともに、当該分野の文献史料と学術論文を講読・分析し、討議を重ねる。授業中に随時、必要文献を指示する。

後期からは、特に修士論文の完成に向けた論文指導を集中的に進めていく。

● 学修到達目標

作成された論文が、先行研究を把握した上で、適切な分析を行い、妥当な結論に達し、且つ論理的な構成を具えたものにすることを目標とする。

● 演習計画

第1回 論文テーマの決定Ⅰ・Ⅱ	第8回 論文指導①
第2回 関連資料の調査方法Ⅰ・Ⅱ	第9回 論文指導②
第3回 関連資料の分析方法Ⅰ・Ⅱ	第10回 論文指導③
第4回 研究の手順Ⅰ・Ⅱ	第11回 論文指導④
第5回 研究経過報告Ⅰ・Ⅱ	第12回 論文指導⑤
第6回 文献史料講読Ⅰ・Ⅱ	第13回 論文指導⑥
第7回 学術論文講読Ⅰ・Ⅱ	第14回 論文指導⑦
	第15回 演習の総括

● 事前事後学習

「国際文化協力特別研究Ⅰ・Ⅱ」の参考文献に示した資料等を事前に自習し、毎回の講義で学習した要点を再度確認しておく必要がある。また各自、疑問点を整理して、次回の授業時に質問できるようにしておくことが求められる。

● テキスト

田中比呂志・飯島渉『中国近現代史研究のスタンダード』研文出版

● 参考資料

潘樹廣・松岡栄志『中国学レファレンス事典』凱風社

橋本萬太郎『民族の世界史5 漢民族と中国社会』山川出版社

溝口雄三『方法としての中国』東京大学出版会

溝口雄三『中国の衝撃』東京大学出版会

● 成績評価方法

演習時の発表・討議と、執筆論文の内容で評価する。

国際文化協力特別研究Ⅱ（平和・ジェンダー・文化）

佐伯 奈津子

● 講義概要

本研究では、「国際文化協力特別研究Ⅰ（平和・ジェンダー・文化）」につづいて、修士論文作成のための演習をおこなう。前期は、特別研究Ⅰで立てた研究計画、論文の構成にしたがい、実際に修士論文を執筆しはじめる。執筆によって必要だと判明した先行研究レビューをつづける。後期は、執筆した修士論文を推敲し、完成させる。

● 学修到達目標

- ・自身の研究の意義や目的を説明することができる。
- ・独自性、創造性のある修士論文を完成させる。

● 講義計画

（前期）

第1回 オリエンテーション

第2回 修士論文の執筆と先行研究レビュー①

第3回 修士論文の執筆と先行研究レビュー②

第4回 修士論文の執筆と先行研究レビュー③

第5回 修士論文の執筆と先行研究レビュー④

第6回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑤

第7回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑥

第8回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑦

第9回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑧

第10回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑨

第11回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑩

第12回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑪

第13回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑫

第14回 修士論文の執筆と先行研究レビュー⑬

第15回 まとめ

（後期）

第1回 オリエンテーション

第2回 修士論文の推敲①

第3回 修士論文の推敲②

第4回 修士論文の推敲③

第5回 修士論文の推敲④

第6回 修士論文の推敲⑤

第7回 修士論文の推敲⑥

第8回 修士論文の推敲⑦

第9回 修士論文の推敲⑧

第10回 修士論文の推敲⑨

第11回 修士論文の推敲⑩

第12回 修士論文の推敲⑪

第13回 修士論文の推敲⑫

第14回 修士論文の推敲⑬

第15回 まとめ

● **事前事後学習**

事前学習では、テキストを読み、概要・疑問点をまとめる。

事後学習では、自身の研究テーマにひきつけて、論点を整理する。

● **テキスト**

受講生の研究テーマに応じて、講義時に提示する。

● **参考資料**

受講生の研究テーマに応じて、講義時に提示する。

● **成績評価方法**

受講態度(発表・ディスカッション)および修士論文において総合的に評価する

国際文化協力特別研究 II(国際移民・文化)

佐竹 眞明

● 演習概要

この授業では研究の途についた諸君が修士論文を執筆するために身につけなければならない思考方法、倫理などについて、検討していく。独自の思考に基づき、独創性を持ち、説得力を持ち、論文を組み立てる必要がある。

特別研究 I で執筆したゼミ論文を基礎にして、修士論文を仕上げてもらう。28000 字であったものを 56000 字以上に積み上げてもらう。40 字×35 行×40 ページ＝56000 字である。授業においては、基礎論文をベースにして、研究内容、研究計画、結論など論文の主要項目に沿って、授業を進める。そして、II の途中で修士論文の素案を提出してもらう。そして、終了時において、修士論文を完成させる。

● 学修到達目標

- ・受講生は自分の研究の意義、目的を説明できることができる。
- ・受講生は研究方法の基礎を習得する。
- ・受講生は修士論文を執筆する基本的な方法を習得する。

● 事前事後学習

I で執筆した論文を読んでおくこと。

● 演習計画

- 第1回 授業の進め方説明 ゼミ論文をもとに
- 第2回 受講生 発表（ゼミ論文の内容＋研究計画）コメント
- 第3回 研究内容 論文のための調査が必要かどうか。どのように調査を進めるか
- 第4回 論文執筆のため 必要な文献を収集 内容を報告
- 第5回 文献研究
- 第6回 文献レビュー
- 第7回 研究計画を立てる
- 第8回 同
- 第9回 受講生による研究計画 発表
- 第10回 調査の実施
- 第11回 調査のまとめ
- 第12回 論文としてまとめる
- 第13回 実践につなげる
- 第14回 夏季休暇の使い方(受講生発表 休暇終了後、修論を一度提出してもらう)
- 第15回 予備
- 第16回 秋学期の使い方
- 第17回 修論 発表
- 第18回 はじめに 検討
- 第19回 第1章 検討
- 第20回 同
- 第21回 第2章 検討
- 第22回 同

第23回 第3章 検討

第24回 同

第25回 第4章 検討

第26回 同

第27回 まとめ 検討

第28回 書式はどうか。改行・文・注の付け方

第29回 参考文献を明示しているか など

第30回 修士論文完成 提出

● **テキスト**

梅野潤子著『研究ってなんだろうーはじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013) 定価本体 1500 円＋税

● **参考書**

井下千以子『大学の学び入門』、慶応義塾大学出版会、2020

佐竹眞明編著『在日外国人と多文化共生ー地域コミュニティの視点から』、明石書店、2011

● **成績評価方法**

授業への参加度を重視する。及び修士論文の執筆・完成。

国際文化協力特別研Ⅱ（国際政治・文化）

増田 あゆみ

● 演習概要（研究テーマ：国際政治学研究）

本研究は、国際政治学を主とし、国際社会における現象を政治学の視座で、分析し、考察することを主たる目的とする。

研究の前半では、修士論文の方針の確認と研究テーマの考察を議論をすることによって、検討を重ねていくことにつとめる。研究の後半においては、個々の受講生の研究テーマの再確認と完成に受けた研究報告を中心に、受講生間での議論を中心に、修士論文の完成へ向ける指導を行う。

● 学修到達目標

受講生の研究テーマに基づいた実証的な研究を積み上げることができるようになること。

● 演習計画

前期

- 1) 修士課程後期における方針について
- 2) 研究テーマの再検討
- 3) 報告と議論
- 4) 指導
- 5) 報告と議論
- 6) 指導
- 7) 報告と議論
- 8) 指導
- 9) 報告と議論
- 10) 指導
- 11) 報告と議論
- 12) 指導
- 13) 研究テーマの考察
- 14) 研究テーマの考察
- 15) 総括

後期

- 1) 研究テーマの考察
- 2) 報告と議論
- 3) 指導
- 4) 研究テーマの考察
- 5) 報告と議論
- 6) 指導
- 7) 研究テーマの完成
- 8) 報告と議論
- 9) 指導
- 10) 研究テーマの完成
- 11) 報告と議論
- 12) 指導
- 13) 研究テーマの再検討
- 14) 指導
- 15) 総括

● 事前事後学習

事前においては、毎回の講義時に報告する文書の予習、事後においては、講義の復習を行うこと。

● テキスト

『国際関係論入門：思考の作法』初瀬隆平編著、法律文化社 2012年

● 参考資料

適宜、指示する。

● 成績評価方法

受講態度および修士論文において総合的に評価する。